

米川「地域づくり計画」見直し作業について 【実施報告書】

2013年12月

本年度の事業として取り組んでおります「米川地域づくり計画見直し事業」の
実施内容をご報告し、今後の取り組みに活かしたいと思えます。

主催：米川地域振興会

お手伝い：NPO 法人故郷まちづくりナイン・タウン

●見直し作業の考え方

平成21年度に策定した地域づくり計画で指定した5か年計画の最終年度にあたり、計画の進捗状況確認と自己評価を加え、今後の中期計画づくりの指針とする。

●目標と結果

目指した目標	調査検討した結果
① 計画の進捗状況確認	20項目中5項目は、完全に実施されて効果がある。 更に5項目は実施されており、一定の効果が表れている。 残りの10項目中5項目は既に行政区内で実施済みであったり、行政機関の実施項目であると確認した。
② 事業の自己評価	実施事業中、特に評価の高かったものは、【案内板、マップの作成】【公民館運営委員会】【河川愛護事業】【乗合タクシー】【地域情報勉強会】であり、実行されていないなどの低い評価は【ポイ捨て看板】【観光事業】【米川ブランド】【河川パトロール】【人材育成】であった。
③ 今後の中期計画の方針策定	進捗確認と自己評価を受けて、以下の方針を確認した。 ・既に実施して、効果の上がっていること。 ・行政機関等が実施していること。 ・行政区単位で取り組んでいることについては、今後は自主的に進めてもらうこととする。 上記以外に、今後も取り組みが必要と考える項目について、実行計画を策定する。 (経年変化を考慮して、新たな事業も取り入れる)

作業の実施経過

第1回会議 平成25年7月16日(火) 午後7時30分

米川公民館



平成21年度に策定した、「一緒にやりすべ米川！」行動計画の
評価と見直しを行い、20項目を点数評価で分類しました。



その後、テーマごとに3班に分かれて、項目を重要度、緊急度の高いもの低いものに
分類して、優先順位を付けて今後継続して取り組むものを選択しました。

それを持ち帰り、新たに取り組むものを加えて、次回までに提出することとしました。

第2回会議 平成25年8月6日(火) 午後7時30分

米川公民館

第1回目で出された分類シートをもとに整理作業を実施

個人作業として、最も積極的に進めたいと思う事業について「次の手シート」に記入作業を行い、テーブルごとに個人プレゼンをおこないました。

各テーブルごとに「最も積極的に取り組みたいこと」と「次に取り組みたいこと」をそれぞれ1項目選出しました。

【選考結果(最も積極的に取り組みたいこと)】



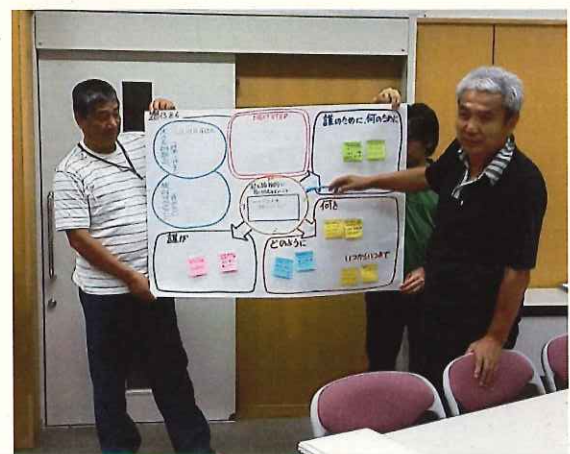
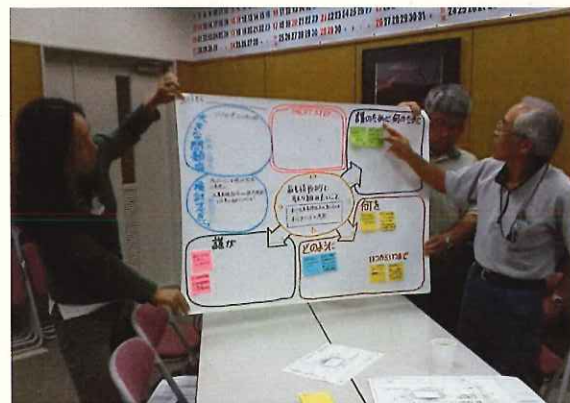
1. 自然・産業	生産森林組合を中心とした山林育成の活動強化
2. 自治会・文化	鱒淵小学校の有効活用 古民家の有効活用 都市部からの移住者推進
3. 安心・安全	災害弱者のリストアップ

【第1回目から使用した分類シートで事業の評価と整理をし、選考した結果一覧表】

NO	項 目	これまでの取り組み状況						今後の取り組み方						担当班	
		テーブル別合計点数					合計 得点	班で相談して選択（各項目2個以上づつ選択）							
		A	B	C	D	E		更なる 充実	もう少し 頑張る	問題・ 課題出し	変更して みる	中止・ 中断	新たな 取り組み		
4	乗り合いタクシー	8	3	1	4	11	27			1		1			1 班
5	歴史・自然・地域情報勉強会の開催	3	5	6	3	6	23			2					
6	生産森林組合を中心とした山林育成の活動強化 （組織団体の実践、モデル事業地域の継承）	8	3	1	5	5	22		2				1		
17	ごみを捨てないなどのポイ捨て禁止看板設置	3		1			5		1		1				
19	開発窓口を地域振興会に設置して観光事業の開発			1			5		1		1				
2	公民館運営委員会の立ち上げ	5	10	6	6	5	32	1							2 班
7	ホームページの作成	3		4	6	8	21	1							
10	観光ボランティア案内人の育成	2		4	4	6	16		2		1	1			
13	他地域との交流（リーダーによる実践）			2	1	1	4			1					
8	鱒淵小学校の有効活用	5	5	3		7	20	1	1		1	1			3 班
15	米川見守り隊の発足	3		4	1		8	2		1			1		
18	米川ブランドの開発	1		2		2	5	1							
21	古民家の有効活用													1	
22	都市部からの移住者推進													1	
1	案内板・マップの作成	6	8	8	6	8	36						1		な し
3	県・市による河川愛護事業の継続	8	5	6	6	5	30						2		
9	行事予定表米川版の作成	5		6	5	1	17						1		
11	野ネズミ駆除・除草作業への高齢者参加への配慮	1	3	4	4	3	15								
12	災害弱者のリストアップ	5	3	4	1	1	14	1					1		
14	声かけロードづくり	3		1	5		9						1		
16	河川パトロール隊（マナーアップ広報活動）			4	1	3	8						1		
20	各事業の専門の人材育成（一歩ずつ前進）			1	1	1	3				1		1		
	合 計	69	45	64	57	74	309								

■黄=これまでの取り組み状況の上位5位 ■赤=6～10位 ■青=11～15位

この表は、初めに左端のNo順にしたものを、右端の担当班ごとに再分類するためのものですので、順番が整っておりませんのでご了承ください。



第3回会議 平成25年9月3日(火) 午後7時30分

米川公民館

前回までのまとめを、さらに具体化するために、SWOT分析と5W1Hシートで個人意見をまとめ、NEXTSTEP(次の手)シートの精度を高めました。

更に追加して、新しく取り組みを行う項目も取り入れて、行動計画としてまとめ上げました。

これらの取り組みを地域の皆様に広報するために、以下に示す「次の手シート」を9月22日の運動会から2か月ほど、米川公民館のホールに掲示して、皆様からのご意見をお寄せいただきたいと思います、掲示しました。

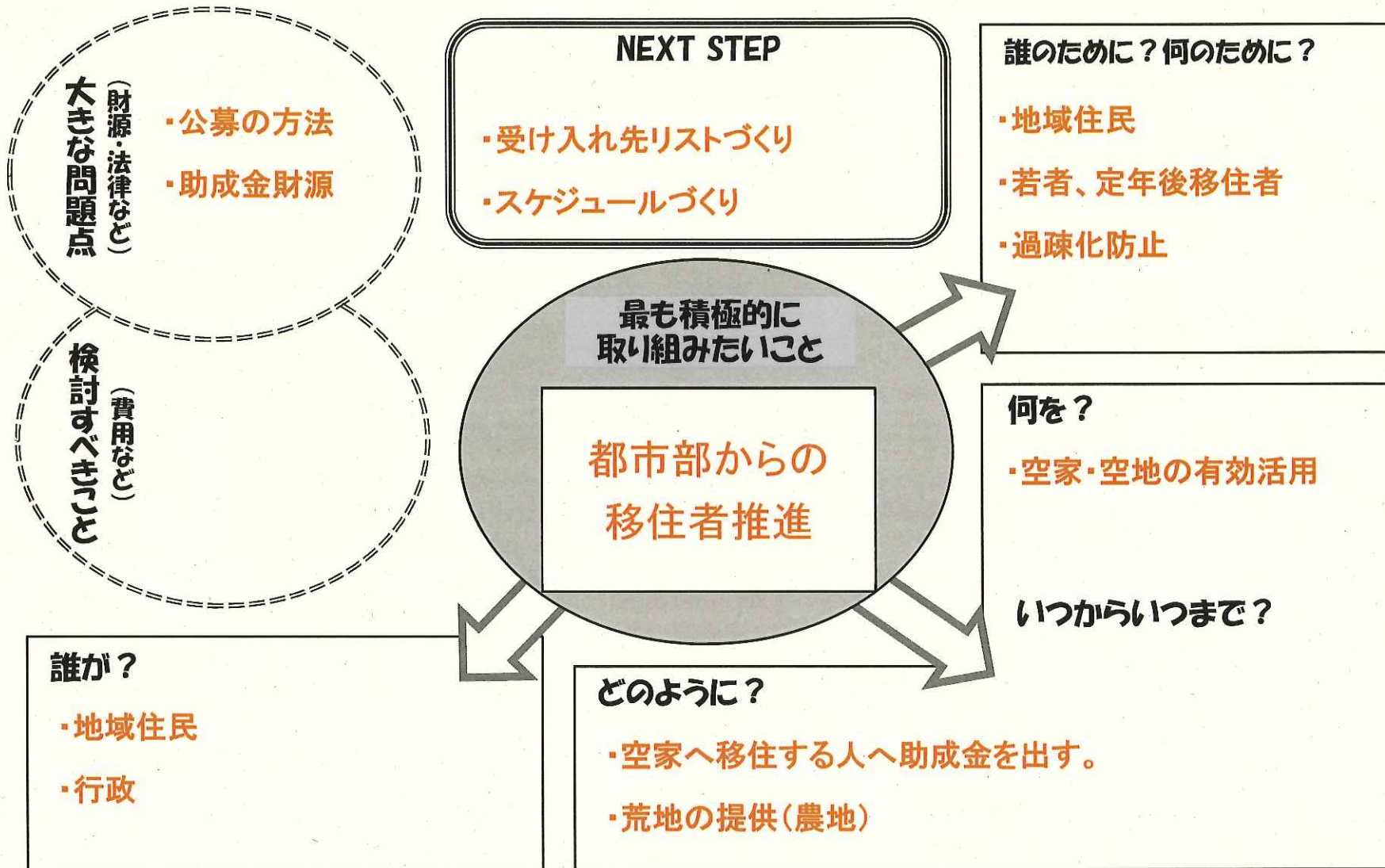
貴重なご意見をありがとうございました。

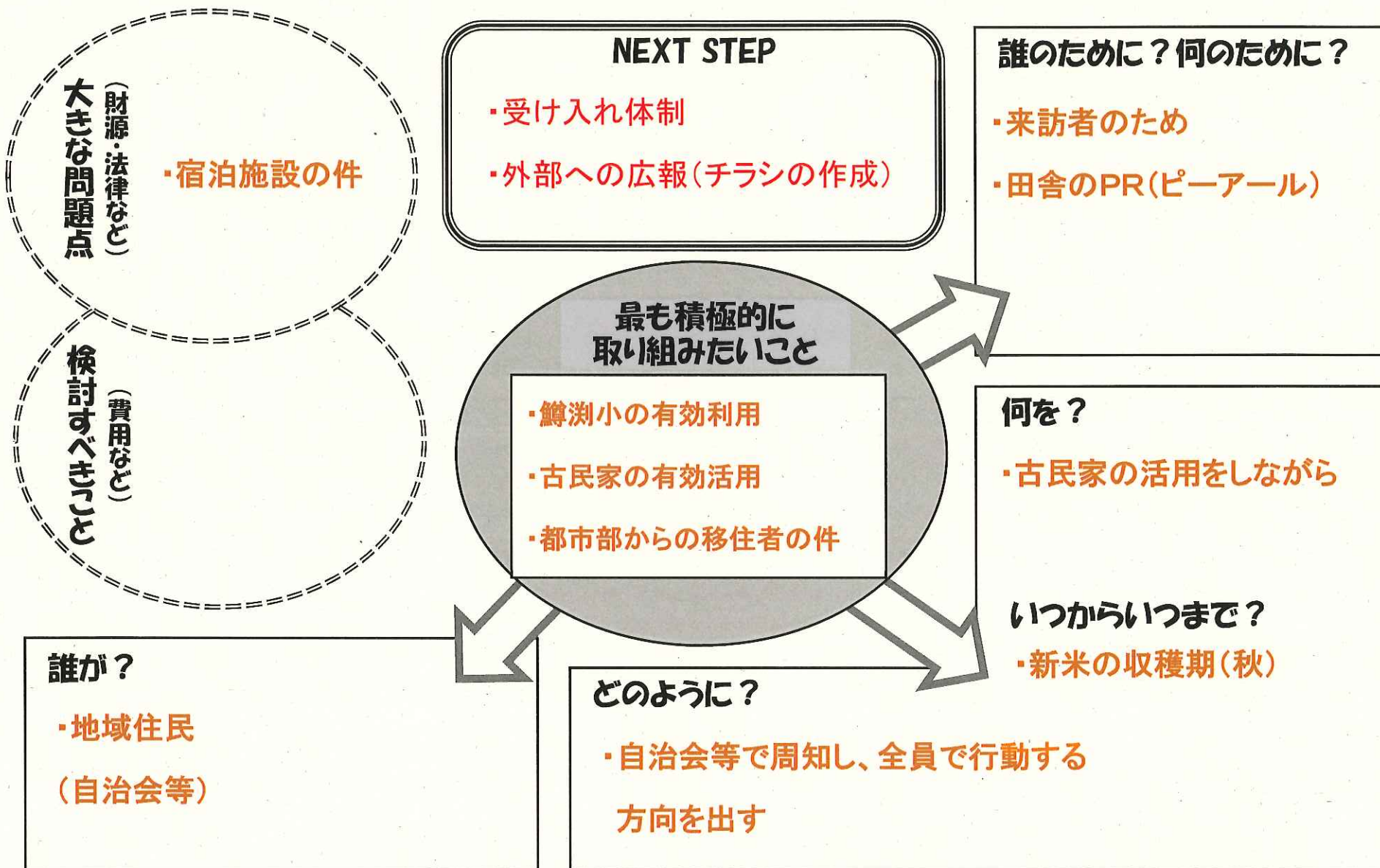
結果として、予想には及ばない少ない件数のご意見でありましたが、今後の取り組みに活かしてまいります。

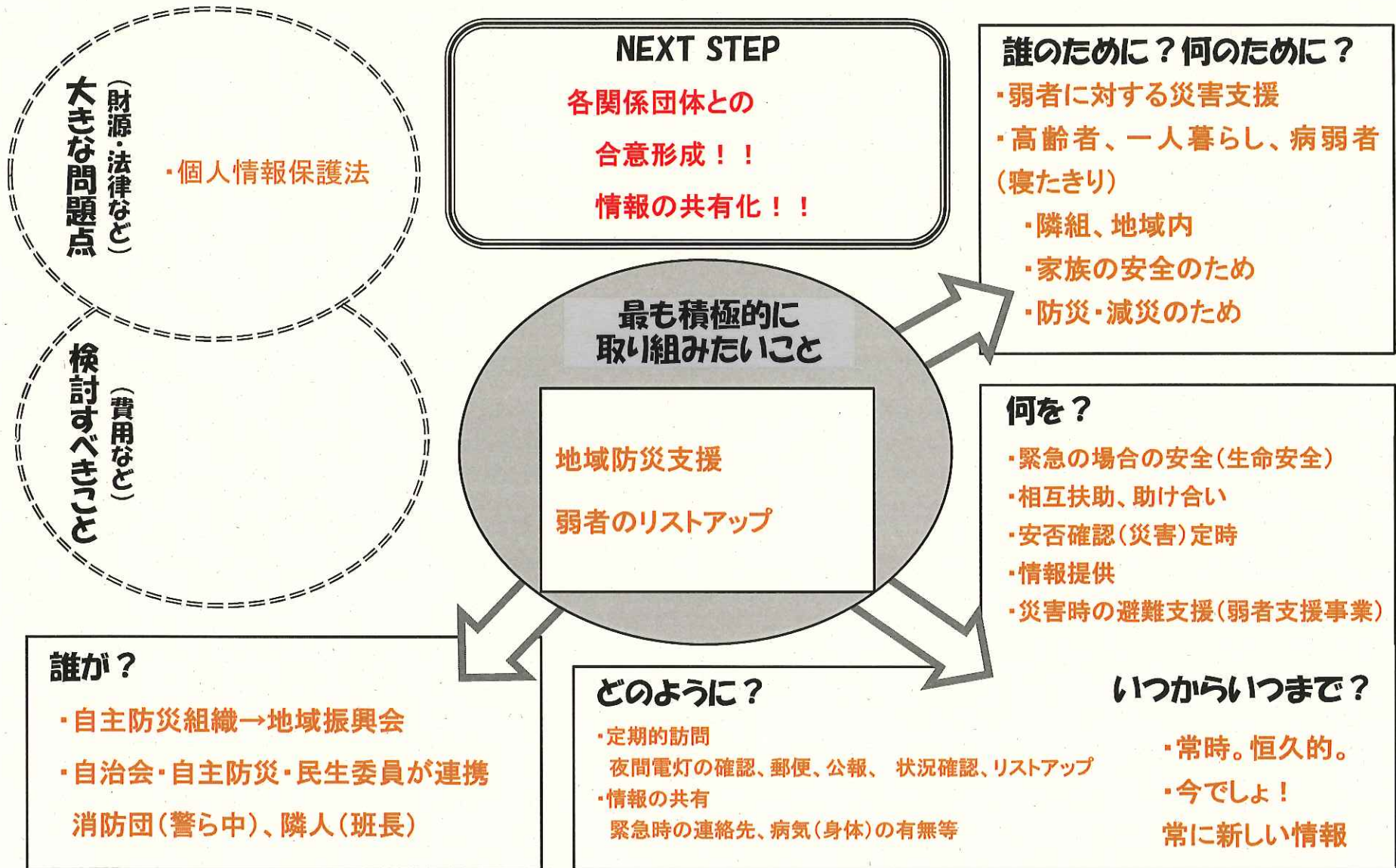
まだしばらくは掲示をいたしますので、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

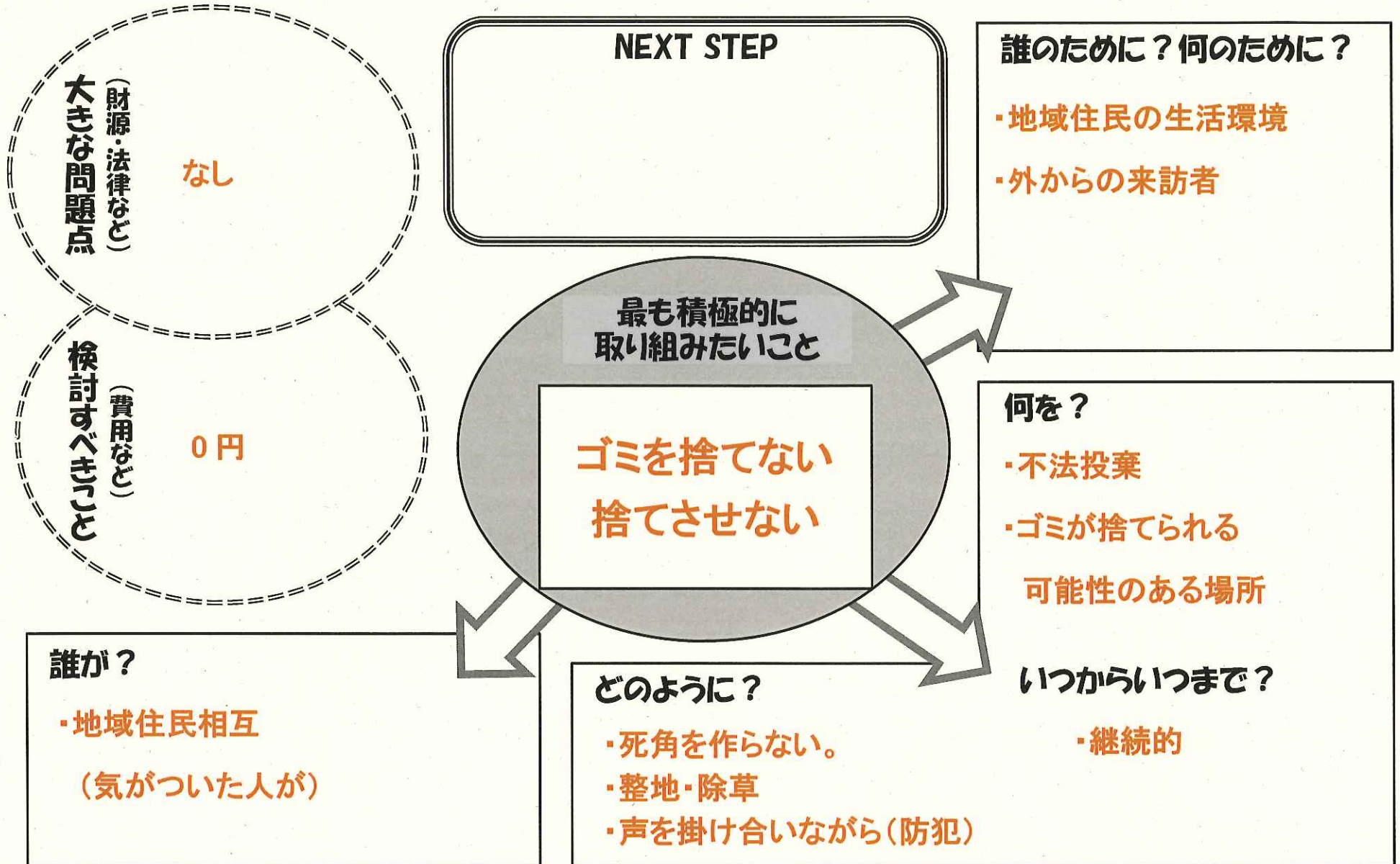
第3回作業部会で作成された、行動計画用「次の手」シート

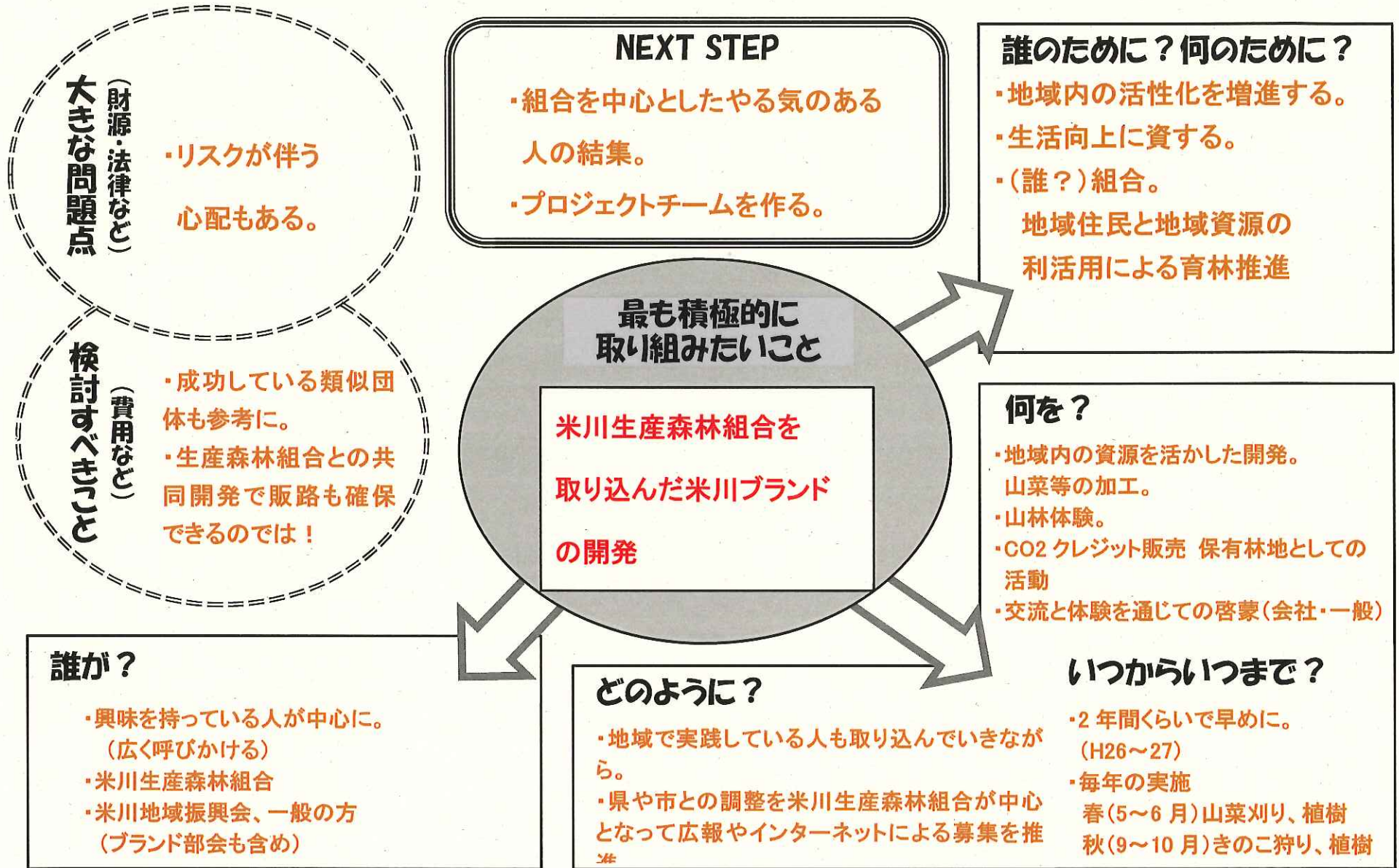
第2回 米川地域づくり計画ワークショップ / 個人プレゼン資料 / 第1班 テーマ「自治会・文化」 (作成日:2013/8/6)

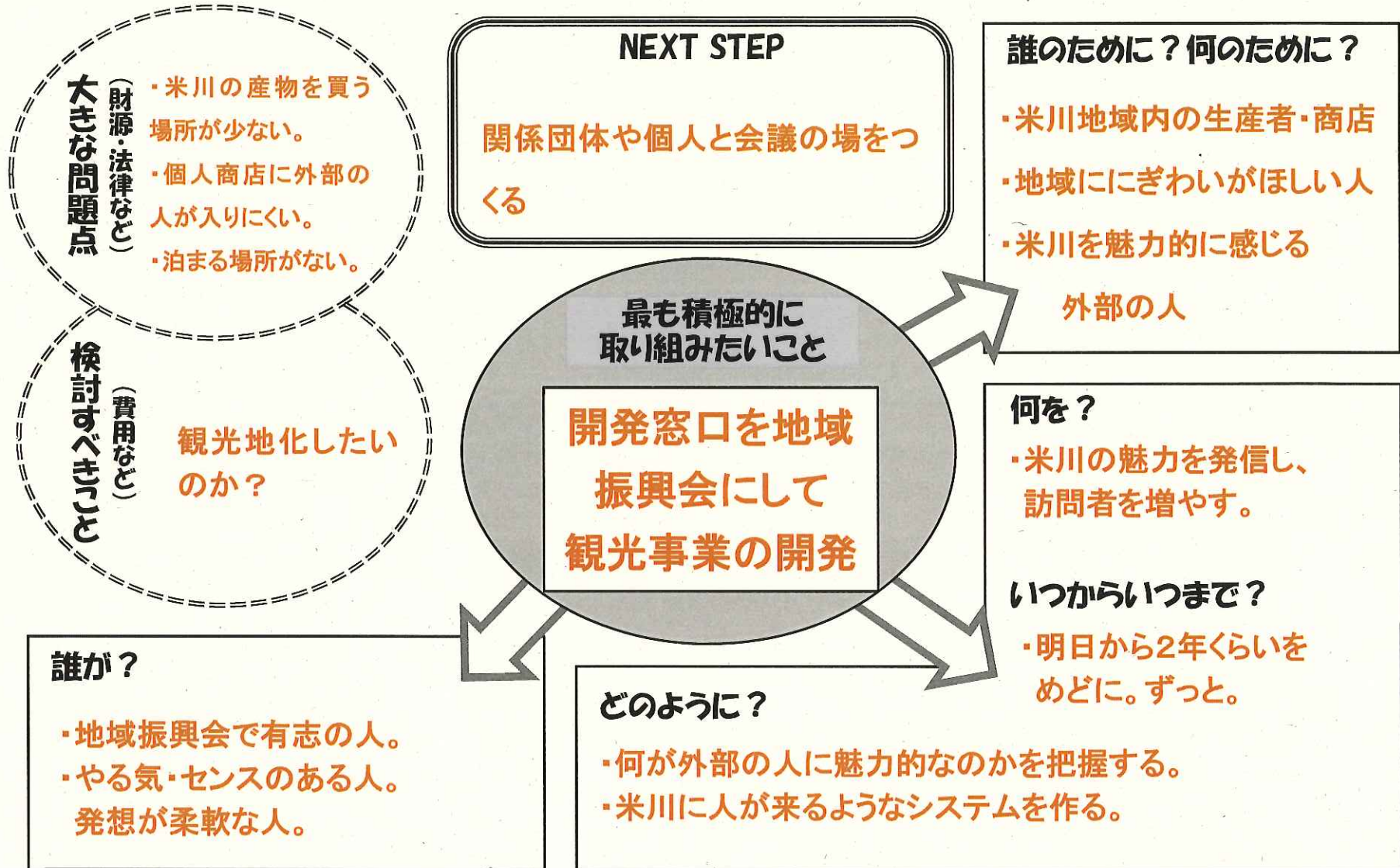












グループで話し合っまとめた「最も積極的に取り組みたいこと」 その1

米川地域づくり計画ワークショップ
第1班 テーマ「自治会・文化」
(作成日:2013/8/6、再構成日:2013/9/3)

まちづくりテーマ

自然に寄り添い、暮らしと心を育む米川づくり

大きな問題点

- ・宿泊施設にする時の、許認可。
- ・経営リスク

検討すべきこと

- ・成功している事例の研究
- ・協力もらえる団体、個人の調査リスト出し
- ・リーダーの選考

NEXT STEP

- ・地域振興会に専門部会を編成して、勉強から始める。
- ・チラシを作成して、外部に広報する。

最も積極的に
取り組みたいこと

**鱒淵小学校の有効活用
古民家の有効活用**

何のために？

- ・田舎暮らしを満喫してもらい、米川を広く知ってもらうために。
 - ・過疎化防止
- ## 誰のために？
- ・米川で暮らしたいと思う人のため。
 - ・自然の中で暮らしたい人のため。

何を？

【古民家などの活用】

- ・旧鱒淵小学校の活用
- ・古民家の活用、耕作放棄地の活用
- ・空き家 ・空き施設
- ・地域の人との交流 ・結っこ

【田舎暮らし体験の場をつくる】

- ・山林体験。米川暮らし体験
- ・交流と体験を通じての米川PR
- ・歴史的祭りへの参加
- ・豊富な水
- ・災害が少ない安全性

誰が？

- ・米川で生計を立てたい人
- ・米川地域振興会、地域住民
- ・地域外の米川応援団
- ・米川に人が増えてほしいと願っている人
- ・米川をPRしたい人

どのように？

- ・空き家(古民家)に移住する人へ助成金を出す。
- ・耕作放棄地の提供
- ・体験事業を実施して、地域になじんでもらう。
また、地域の人にも慣れるようにする。
- ・設計士と古民家再生のための勉強会をする。
- ・地元材の良さを勉強し、PRする。

いつからいつまで？

- ・新米の収穫期(秋) H26年～28
- ・通年の実施(田舎暮らし)

グループで話し合っまとめた「最も積極的に取り組みたいこと」 その2

米川地域づくり計画ワークショップ
第2班 テーマ「安心・安全」
(作成日:2013/8/6、再構成日:2013/9/3)

まちづくりテーマ

自然に寄り添い、暮らしと心を育む米川づくり

大きな問題点

- ・個人情報保護法の対処

検討すべきこと

- ・リストの保管管理

NEXT STEP

- ・各関係団体との合意形成、情報共有を進めるための協議会を、地域振興会に設置する。

最も積極的に 取り組みたいこと

**地域防災支援弱者の
リストアップ**

何のために？

- ・米川を安全で安心な地域にするため
- ・災害弱者の防災・減災のため

誰のために？

- ・高齢者や子ども、一人暮らしの方など
- ・隣組、米川に住む人たち。家族。
- ・米川に来た人。

何を？

【命の安全確保】

- ・緊急避難路、場所、方法
- ・弱者支援活動と事業

【助け合いによる安全確保】

- ・相互扶助、助け合い
- ・安否確認(情報提供)
- ・常に新しい情報
- ・隣組による見守り

いつからいつまで？

- ・常時、恒久的に
- ・今でしょ！

誰が？

- ・自主防災組織→地域振興会
- ・自治会、自主防災、民生委員が連携
- ・消防団(警ら中)
- ・隣人(班長)

どのように？

- ・定期的訪問
(夜間電燈の確認、郵便、広報)
※確認状況のリストアップ
- ・情報の共有
(緊急時の連絡先、病気の有無など)

グループで話し合っまとめた「最も積極的に取り組みたいこと」 その3

米川地域づくり計画ワークショップ
第3班 テーマ「自然・産業」
(作成日:2013/8/6、再構成日:2013/9/3)

まちづくりテーマ
自然に寄り添い、暮らしと心を育む米川づくり

大きな問題点

- ・リスクが伴う心配もある。
- ・許認可が必要な業種や、製品は開始までに時間がかかる。
- ・個人の所有物を地域管理するのは難しい

検討すべきこと

- ・成功している団体の事例を参考にする。
- ・生産森林組合との共同開発で販路開拓をすすめる。

NEXT STEP

- ・組合を中心としたやる気のある人、興味ある人で組織化して勉強会を始める。
- ・事業ごとのプロジェクトチームを作る。

C **最も積極的に取り組みたいこと**

米川生産森林組合と地域住民が協働した「米川ブランド」の開発

何のために？

- ・米川が元気に自活できる地域になって生活が向上するため。

誰のために？

- ・米川で暮らしている人のため。
- ・米川で暮らしたいと思う人のため。
- ・今後米川を選んでくれる人のため。

誰が？

- ・興味を持っている人が中心となって。(広く呼びかける)
- ・米川生産森林組合
- ・米川地域振興会、地域住民
- ・地域外から米川を応援したいと思っている方 (ブランド部会も含め)

どのように？

- ・地域で実践している人と仲間づくりしながら、雇用できる職場、施設、仕組みを作る。
- ・県や市との調整役は生産森林組合が中心となり、広報やインターネットは地域で協力しながら募集する。
- ・米川の「売り」づくり事業に取り組む。

何を？

【地域資源を活かす】

- ・米川の米 ・まいたけ加工品 ・山菜の栽培 ・農産物加工品 ・特用林産
- ・蜜 ・空き家 ・空き施設 ・山 ・川
- ・お年寄りの知恵 ・技 ・結っこ

【着地型体験学習の場をつくる】

- ・山林体験。米川ぐらし体験。
- ・CO2クレジット(J-VER)販売
- ・保有林地としての活動
- ・交流と体験を通じての米川啓蒙
- ・会社関係や一般市民との交流

いつからいつまで？

- ・2年間くらいで早めに。(H26~27)
- ・毎年の実施
春(5~6月)山菜刈り、植樹
秋(9~10月)きのこ狩り、植樹

まちづくりテーマ 自然に寄り添い、暮らしと心を育む米川づくり

今回の取り組みを整理して、今後の取り組みの基礎となる、「米川行動計画2013年版」を作成いたしましたので、ご報告いたします。

米川行動計画2013年版一覧表（平成26年～平成30年）

No.	項目	取り組み概要	実施期間	特徴	備考
1	鱒淵小学校の有効活用・古民家の有効活用	田舎暮らしを満喫してもらい、米川を広く知ってもらい、人口減少に歯止めをかけ、米川で暮らしたい、自然の中で暮らしたいと思う人を受け入れるために、旧鱒淵小学校や古民家を活用して、米川住民との交流を深め、地域の活性化を図る	平成26年～28年 事業は通年型とする。	地域の耕作放棄地を活用して、農業の実践、設計士と古民家再生のために勉強会を行う。	古民家に移住する人に助成金を出す。
2	地域防災弱者のリストアップ	米川地域における、高齢者や子ども、一人暮らしの方などの防災減災のために、相互扶助、見守りなどの地域力を生かす。そのために現状把握が必要であり、リストアップを行う。	平成26年4月～7月	自主防災組織、自治会、民生委員、消防団、班長が連携	個人情報の取り扱いに関しては、更に協議検討が必要
3	米川生産森林組合と地域住民が協働した「米川ブランド」の開発	米川の米、まいたけ加工品、山菜、空き家などの地域資源を活かし、着地型体験学習の場を作り、山林体験や、米川暮らし体験を受け入れる。 交流や体験を通じて、米川の魅力を広く伝え、将来的に米川が自立した地域として暮らせる地域を目指した、経済活動を中心にした事業。	平成26年～27年 事業は季節のイベントを中心として通年実施する。	米川の「売り」をつくり、地域内の人で仲間づくりを進めながら生産森林組合等との連携を強化して取り組む	将来的なブランド化までには時間がかかるが、そのためにも今すぐ取り組まなければならない。
4	ゴミを捨てない、捨てさせない	ゴミの不法投棄があり、生活環境が悪化することから、次の点に留意して活動を行う。 ・捨てられる可能性のある場所の情報共有 ・継続的な整備活動（死角をつくらない、整地、除草など）	今すぐに始め、継続させる	地域住民が一丸となつて	声かけが必要
5	開発窓口を地域振興会にして観光事業の開発	米川の魅力を外に情報発信して、観光客を増加させる。 そのための魅力探しをはじめ、計画づくりをするために協議会を設置する。	今すぐ、2年計画で取り組む	地域振興会に協議会を作る	

それぞれの項目の次の一手！

No	事業項目	次の一手	課題
1	鱒淵小学校の有効活用・古民家の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興会に専門部会を編成して勉強から始める。 ・チラシを作成して、外部に広報する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用上の許認可 ・経営リスク ・推進リーダーの選考
2	地域防災弱者のリストアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係団体との合意形成 ・情報の共有化 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法との関連 ・情報管理体制
3	米川生産森林組合と地域住民が協働した「米川ブランド」の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・組合を中心としたやる気のある人、興味のある人で組織化して勉強会を始める。 ・事業ごとのプロジェクトチームを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営リスクの検討 ・許認可の確認 ・個人所有物の管理 ・販路開拓
4	ゴミを捨てない、捨てさせない	<ul style="list-style-type: none"> ・気づいた人がすぐに取り組む ・啓蒙活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
5	開発窓口を地域振興会にして観光事業の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体や個人と会議の場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・米川のものを買う場所が無い ・個人商店に住民以外が入りにくい ・宿泊施設が無い

今回お手伝いした者として感じたことをご提案させていただきます。

地域振興会が米川の地域づくりにあって中心的存在であることは自明の理ですが、すでに独自に活動している住民団体や産業団体など、個別組織や事業との連携を図る会議体が今後は必要になると思います。

旧来の縦割りの社会構造による地域経営は少子高齢社会では困難となるため「多様なステークホルダーによる協働運営」を基本とした横のつながりを生かした取り組みが求められています。

そのための環境作りが地域振興会の役割であると思います。

「地域運営は自分ごと」をテーマとしてそれぞれの活動や組織、歴史がもつ魅力を物語としてまとめながら、団体間の事業連携を進め、振興会の主催事業を考えることが、継続性のある地域づくりの基になると考えます。

「地域づくり計画」見直し作業部会委員（順不同・敬称略）

片平敏朗	猪又和枝	岩渕明美	小野寺富雄
石川久吉	佐藤英雄	小野寺公一	首藤早百合
佐藤新一	千葉芳郎	畠山光雄	沼倉美智子
菅原一元	菅原輝雄	藤原みさを	首藤正敏
及川浩	佐藤一哉	阿部定基	及川一男
藤原弘	佐藤久雄		

業務委託先

特定非営利活動法人故郷まちづくりナイン・タウン

宮城県登米市中田町石森字小人町71-2

ファシリテーター・アドバイザー

地域デザイナー 伊藤寿郎

まとめ

今回の作業を通じて、これから数年をかけて実行する地域内での取り組みが形づけられました。

今後の地域づくりの指針として取り組むことはもちろんですが、常に時代の変化を考えながら見直しを行えるようにと考えます。

米川には自然や人材、技術、施設などの資源は数多くあり、長年にわたって育まれてきた人々の知恵や努力によって今に活かされているのだと思います。

今を生きる私たちは、先人のチカラ、自然のチカラを無駄にすることなく、小さなチカラを生かして【チカラをタカラに】変える工夫が求められているのだと思います。

このような点を取り入れて、まちづくりテーマは「自然に寄り添い、暮らしと心を育む米川づくり」といたしました。

時代の流れは、ともすれば私たち地域住民のつながりを弱くしてしまっているのかもしれませんが、今こそ知恵を出し合い、寄り添いあって地域づくりに取り掛からなければならないのだと考えます。

米川地域振興会という集まりを、自分たちが活かしながら地域のためになる仕組みをつくることこそが、先人に報いることであり、自然を敬うことにつながり、将来の米川で暮らす人々へとつないでいく役割を果たすのだと考えます。

共に手を携えて、参りましょう。

2013年12月

米川地域振興会「地域づくり計画」見直し作業部会 作成

まちづくりテーマ 自然に寄り添い、暮らしと心を育む米川づくり

米川の魅力再発見【5つの提言】

【一緒にやりすべ米川！行動計画】 平成26年版（平成26年～平成30年）

やるべきこと

次の一手

取り組み期間・平成30年にめざすところ

◆その1

鱒淵小学校・古民家の有効活用



- ・専門部会を設置して活用方法等の勉強を始める。
- ・チラシで広報を始める。

平成26年～28年

自然豊かな米川暮らしを満喫したいと思う人を受け入れて、米川住民との交流を深め、地域の活性化を図る。

◆その2

地域防災弱者の名簿作成



- ・自主防災組織、自治会、消防団など各関係団体との合意形成
- ・情報の共有化

平成26年4月～7月

高齢者や子ども、一人暮らしの方などの防災減災を目的として、相互扶助、見守りなどの地域力を生かすための名簿を作成して、活用を図る。

◆その3

協働による「米川ブランド」の開発



- ・米川生産森林組合を中心にやる気、興味ある人の勉強会開始。
- ・事業ごとのプロジェクトチームを作る。

平成26年～27年

米川生産森林組合と地域住民が協働して地域資源を活かした体験の場をつくり、受け入れを行う。そのための人材育成と、米川の「売り」をつくる。

◆その4

ゴミを捨てない、捨てさせない活動



- ・気づいた人がすぐに取り組む
- ・掲示板、広報などにポスターを貼るなどの啓蒙活動

今すぐ～継続する

ゴミの不法投棄があるので撲滅活動を行う。
・捨てられる可能性のある場所の情報共有
・整備活動（死角を作らない、整地、除草など）

◆その5

窓口を振興会にした観光事業開発



- ・関係団体や個人と会議の場をつくる。

平成26年～28年

米川の魅力を外に情報発信して、観光客を増やす。そのため魅力探しをはじめ、計画づくりをするために協議会を設置して2年計画を策定する。